

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520737

研究課題名(和文)近代化模索期の「国史」編纂と地図作成 赤門書庫旧蔵地図の研究

研究課題名(英文) Compiling of National History and Map Making in the Transition from Early Modern to Modern: A Study on the Map Collection in the former Akamon-Storehouse in the University of Tokyo

研究代表者

杉本 史子(山田史子)(Fumiko, Sugimoto)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：10187669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：東京大学史料編纂所所蔵「赤門書庫旧蔵地図」の整理を完了。2015年度から東京大学史料編纂所において、詳細な研究データがウェブ公開され、原物の閲覧が開始される予定。調査・研究内容は、『東京大学史料編纂所研究成果報告2014-3 近代移行期の歴史地理把握のタイムカプセル赤門書庫旧蔵地図の研究』(本文392頁)にまとめた。研究成果の一部は、Karen Wigen・Sugimoto Fumiko・Cary Karacas編『Cartographic Japan: A History in Maps』(The University of Chicago Press 2015年刊行予定)に反映させた。

研究成果の概要(英文)：1)Our research group has completed evaluating and organizing historical map collection in the former Akamon-Storehouse in the University of Tokyo. The University of Tokyo's Historiographical Institute will offer this collection for public viewing in 2015 with detailed research data and some digital images.
2)We have made public our research contents in our web site, open research meetings, exhibitions and lecture meetings. The results of our research are recorded in "Research Report for the University of Tokyo's Historiographical Institute 2014-3 The Time-Capsule on Understanding on History and Geography in the transition from early modern to modern: A Study on the Map Collection in the former Akamon-Storehouse". And our research views will be reflected in "Cartographic Japan: A History in Maps", edited by Karen Wigen, Sugimoto Fumiko, and Cary Karacas, The University of Chicago Press, 2015.

研究分野：日本史

キーワード：近代化 海図 海洋 歴史 水路 伊能忠敬 政治 外交

1. 研究開始当初の背景

近代国家の形成に、歴史編纂 伝統の創造が大きな役割を果たしてきたことは従来から指摘されてきた。それとともに、地図が国民国家という観念を作り上げたとするトンチャイ・ウニチャクルの研究や、ベネディクト・アンダーソン『増補 想像の共同体: ナショナリズムの起源と流行』(白石隆・白石さや訳、NTT 出版、1997 年)以来、国民国家形成と地図作成の問題が取り上げられることになった。地形図による国土把握の問題は、近代国家の物理的・政治的ボディを作り上げることを意味し、また海図の作成と国際共有の問題は、近代的国際秩序・外交と不可分な問題である。

2. 研究の目的

本研究は、明治政府の歴史編纂・地理編纂諸機関が収集・作成してきた史料群「赤門書庫旧蔵地図」を整理し、関連史料とあわせて分析することにより、「近代化模索期」を再検討することを目的とした。

「近代化模索期」とは、幕末開国以降の新秩序・政治体制模索の時期と、いわゆる新政府による近代国家形成期との両方を含んでいる。維新変革は、社会・国家のドラスティックな変革であると同時に、新政府の中では旧幕臣の実務層・技術が活用されるという面をもっていた。本研究では、断絶と継続、革新と止揚をともに視野に入れ、近代化の問題にアプローチすることを目指した。

3. 研究の方法

(1) 「赤門書庫旧蔵地図」の悉皆調査

調書・目録作成

当該史料群の原秩序を尊重して整理番号を付与し、タイトル・作成年・測量年・刊行情報・方位・縮尺・サイズ・特徴などの基本的な書誌情報を採録した。これにより、これまで存在自体がほとんど知られていなかった、地図史料群の基礎的データを学会・社会に提供できる。

本研究で「近代化模索期」と名付けた変動期の地図は、確立された地図様式には当てはまらない多様な相貌を持っている。すでに、杉本史子他編『絵図学入門』(東京大学出版会、2011)にはこの時期の海図調査表モデルを提案したが、本研究では、さらにこれらの地図類についての調査方法・目録記述・編成法の方法論を検討した。

デジタル化

特に史料的高価値が高いと判断される地図のデジタル撮影を行い内容分析の素材とするとともに、一般公開のありかたを検討した。

(2) 分析

(1)の成果にもとづき、関連史料群も合わせ検討し、「近代化模索期」の「国史」編纂・地図作成の基礎的事実の確定を検討した。

4. 研究成果

(1)「赤門書庫旧蔵地図」の検討・整理・目録化を完了した。地図群は、2015 年度から東京大学史料編纂所において、一般公開開始予定である。また同所のホームページ上で、本研究により明らかになった各史料の詳細データ、測量・作図・描画・出版に関わる人名および、デジタル画像も公開予定である。

(2)本研究により、明らかになった「赤門書庫旧蔵地図」の性格は以下の通りである。

新発見史料・稀少な史料群の存在

本地図群の大きな特色としては、なんと言っても、19 世紀中期の、航行するための海図 = 海図を含んでいることが上げられる。これまで内容が明らかでなかった幕末の徳川幕府軍艦組作成による海図などが発見されたことや、国内他機関には残存数が少ない明治 10 年代の日本版海図が豊富に残されていることが明らかになったことは、特筆すべき成果といえる。幕末から明治 20 年代の海図が群として残されていることから、日本版海図作成の展開を具体的に追うことが可能となった。

近代初期の歴史・地理編纂の痕跡を残す史料群

明治政府の歴史・地理編纂機関に前述の海図群が残されたのは、三角測量による陸上の実測図が整備されていない段階にあって、海図の位置データや経緯度が陸図作成に利用されたことが大きいと考えられる。「赤門書庫旧蔵地図」には、その作業痕跡が残された地図が多く残されている。この、作業の痕跡をとどめた地図群であるという点が、「赤門書庫旧蔵地図」の第二の特色となっている。この点は陸図も同様で、調査のなかから、近世に作成された絵図が、近代地図作成に利用されてきた具体的痕跡を見出すことができる。伊能図により海岸線を描き、天保国絵図によりその内部を充足させる作業が行われたのである。

データとしての価値

明治初期海図に書き込まれた測量・作図・描画の技術者や出版関係者の詳細な情報は、この時期特有のものであり、「近代化模索期」の実際の地図作成・出版を支えた人材・技術・組織解明の基礎データとなる。これらのデータは、一般の文字記録類には残りにくいものであり、貴重なものといえる。

『東京大学史料編纂所研究成果報告書 2014-3 近代化移行期の歴史地理把握のタイムカプセル・赤門書庫旧蔵地図の研究』(本文 392 頁) 巻末には、吉岡誠也作成の史料目録、「海図に記載された測量者一覧」、「海図に記載された製図・印刷者一覧」を掲載した。内務省地理局職員データ(横山、2002～2003)、および史料編纂所所蔵近世後期～近代初期の印刷図人名データ(杉本、2009～2011)とあわせ、近世から近代の、出版・測量・地図作成・地理編纂をささえた技術者・実務者たちの基礎データとなりえるものである。

(3)「赤門書庫旧蔵地図」から問い直す「近代化模索期」

近年の歴史学では、国家をこえた地域やネットワークを希求する動きの中で海洋への注目が高まっている。しかし、実際の分析は未だ陸上の発想に固定されがちである。

それに対して、本史料群は、海洋把握の変化から歴史を捉え直す好個の史料群だといえることができる。18-19 世紀、海洋の持つ意味は劇的に変化した。18 世紀、クロノメータ(精巧なゼンマイ時計)と月距法(月と太陽や恒星との角距離に注目する経度計算法)を使った経度測定法が確立され、経緯度データとそれに基づく海図(海図)によって把握することを可能となった。そして、蒸気船の登場によって、「世界の情勢が一変」し、遠方に懸け隔たった国々も「ごく手近のよう」になった(ハリス、1958)。

これまでの幕末維新史研究の中でも、文久三年(一八六三)には京都 鹿児島間に十日かかっていた薩摩藩は、元治元年(一八六四)禁門の変時には蒸気船によって五日で移動できた(佐々木、2004)。また、奥羽諸藩は蒸気船を実用化できず、京阪が政局の中心にしてなることで、元治～慶応初年ごろ不利な立場にあったとの指摘がなされている(青山、2000)。木造和船に比べ喫水の深い蒸気船の安全な航行や、水上での効果的な軍事行動には、干満情報、水深や水中の障害物、錨を下ろす際に重要な海底土質の情報を搭載した海図が不可欠だったことはいままでもない。

近代史の側からは、日本の帝国化における

海図の意味が問い直されている(山室、2006)。本研究による史料群整理は、その前段階を明らかにする基礎条件を作り出した。本研究の成果からは、実際の「近代化」は、既定路線としての、あるいは単純な一方方向の道程ではなく、複数の可能性と無数の試行錯誤、ある場合は行き止まりの道や相互に矛盾した枝分かれのとの格闘のなかに存在していたことを示している。

「赤門書庫旧蔵地図」における幕末～近代初期にかけての日本・北東アジアについてのまとまった海図群の存在は、このような変化を経て、重要な意味を持つようになった海洋把握模索の実際を語るものといえる(杉本、2015ab)。

(4) 研究成果の英語圏一般読者への発信

本研究で得られた知見は Karen Wigen, Sugimoto Fumiko, and Cary Karacas, ed. *Cartographic Japan: A History in Maps*, The University of Chicago Press, 2015 (刊行予定) に反映させた。

同書は鮮明な地図画像を掲載し、16-20 世紀日本の、高度で洗練された地図文化と日本社会の特質を論じたものであり、英語圏の読者に、具体的な深みをもって日本社会や人々、その世界観、営み、近代化への模索について理解を可能にさせるものである。

< 引用文献 五十音順 >

青山忠正『明治維新と国家形成』吉川弘文館、2000 年

石橋悠人『経度の発見と大英帝国』三重大学出版会、2010 年

佐々木克『幕末政治と薩摩藩』吉川弘文館、2004 年

杉本史子代表・科学研究費補助金・基盤研究 (A)「『地図史料学の構築』の新展開」(研究代表者・杉本史子、課題番号 2142018、2009～2011)

杉本史子「地図・絵図の出版と政治文化の変容」、横田冬彦編『本の文化史 第 4 巻 出版と流通(仮題)』平凡社、2015 年刊行予定 a)

杉本史子「『新たな海洋把握と「日本」の創出 開成所と幕末維新』(『日本史研究』634号、2015年6月号刊行予定b)

ハリス、坂田精一訳『ハリス日本滞在記(下)』岩波文庫、1958年

山室信一「空間認識の視角と空間生産」、山室信一責任編集『岩波講座「帝国」日本の学知 第八巻』2006年

横山伊徳代表『科学研究費補助金基盤研究(C)(2)「内務省地理局における地図蓄積=管理構造の復元的研究」(課題番号14510349、2002~2--3)研究成果報告書』

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

— 杉本史子「新たな海洋把握と「日本」の創出 開成所と幕末維新」(『日本史研究』634号、2015刊行予定 pp.3-31)

— 杉本史子「地図・絵図の出版と政治文化の変容」(横田冬彦編『本の文化史 第4巻 出版と流通(仮題)』2015刊行予定)

— 佐藤賢一「災害歴史記録とローカル・ナレッジの形成」(『科学史研究』第 期、272号、2015、pp.29-31)

— 杉本史子「近世日本裁判再考」(臼井佐知子、H・ジャン・エルキン、岡崎敦、金炫栄、渡辺浩一編『契約と紛争の比較史料学 中近世における社会秩序と文書』(吉川弘文館、2014.12、pp.106-126)

— 杉本史子「江戸城と江戸」(東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく 史料が語る ときおきの42話』、中公新書、2014.12、pp.198-202)

— 中村雄祐「紙とデジタルの間で 人文学の物質的側面と知的分業について」(熊野純彦・佐藤健二編『人文知3 境界と交流』東京大学出版会、2014、pp.43-65)

— 渡辺理絵・小野寺淳「鶴岡城下絵図の精度に関するGIS分析」(平井松午・安里進・渡辺誠編『近世測量絵図のGIS分析-その地域の展開』古今書院、2014.01、pp.225-238)

— 杉本史子「鳥瞰風景のなかの将軍」(箱石大編『戊辰戦争の史料学』勉誠出版、2013.3、pp.343-380)

— 佐藤賢一「『石塚六郎兵衛算術』和算家の算術修行日記」(『科学史研究』第 期、266号、2013.12、pp.82-100)

— 小野寺淳「水戸道中の特色」(『茨城県歴史の道調査事業報告書』2013、pp.2-10)

— Kenichi Sato, "An Introduction of the History of Land Surveying in the 17th Century Japan: Technology Derived from Dutch into Japan," Proceedings of ISHIK, 2012, pp.39-46

— 佐藤賢一「近世日本数学史」(『科学史研究』第 期、264号、2012.12、pp.193-198)

[学会発表](計6件)

— 杉本史子「幕末の官板日本図の出版と政治文化の変容」(日本史研究会9月例会「空間表現の知と政治-19世紀の海から」2014.9.28 京都、機関紙会館)

— 杉本史子「歴史と空間」(神戸大学史学研究会、2014.7.27 神戸大学文学部、招待講演)

— 杉本史子「幕末の官板「日本」図出版と政治文化の変容」(国絵図研究会、2014.3.22 宮崎県日南市国際交流センター小村記念館)

— 杉本史子、第40回企画展講演会「近世社会と絵図作成 その特質と変容」(2014.4.12 川越市立博物館、招待講演)

— 小野寺淳「シーボルト収集のカラフト図をめぐって」(第32回国絵図研究会、2012.09.15 長崎歴史文化博物館(長崎県))

— 杉本史子「時事と鳥瞰図 その背景にあるもの」Mapping Japanese History: Space, Power, Representation, September 17, 2012 Henry R. Luce Hall, Yale University

[図書](計2件)

— Karen Wigen, Sugimoto Fumiko, and Cary Karacas, ed. *Cartographic Japan: A History in Maps*, The University of Chicago Press, 2015 (刊行予定)

— 佐藤賢一『仙台藩の和算』大崎八幡宮、2014年、70

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fumiko/index.htm>

6．研究組織

(1)研究代表者

杉本史子 (SUGIMOTO, Fumiko)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：10187669

(2)研究分担者

小野寺淳 (ONODERA, Atsushi)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：90204263

佐藤賢一 (SATO, Kenichi)

電気通信大学・情報理工学(系)研究科・准教授

研究者番号：90323873

(3)連携研究者

中村雄祐 (NAKAMURA, Yusuke)

東京大学大学院・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：60237443